

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりが「学び」を通じて自己肯定感を醸成し、将来の自己実現のためのスキルを身につけられるよう基礎学力の定着と専門的知識・技能を身につけ、地域社会との連携を深め、実践的な学びを重視した教育活動により、「地域社会に貢献できるビジネスパーソン」、「超高齢化社会を支える介護・福祉分野のプロフェッショナル」を育成する。さらに、社会の課題解決に取り組む課題探究型学習を通して、少子高齢化社会に対応した持続可能な社会で貢献できる人材を育む教育を推進する。

(1) 高校生活のあらゆる機会を通じて教養を深め、豊かな心と互いを認め合う態度を養う。

(2) 学習の基礎・基本を大切にし、さらに専門知識を身につけ専門高校として資格の取得を推奨し、将来の自己実現に向けた学びを深める。

(3) 自己の進路への自己理解を深め、目標に向かい自主的に努力する態度を養い、生涯学習の観点から自己教育力を身につける。

2 中期的目標

1. 確かな学力の定着と学びの進化
- (1) 授業改善に取り組み、学習の基礎基本となる資質や能力の定着をはかり、「確かな学力」を確立する。
- ア 授業改善のための指針としてPDCAサイクルを活用し、教員自らが研究や研修活動を推進し、「わかる授業」「魅力ある授業」を構築する。
- イ 授業アンケートの結果に対する分析を行い、課題解決に向け研修等を活用し、より理解が深まる授業を実施に向け取り組む
- ※ 授業アンケート「興味関心がある」の肯定的回答率について75%以上（R4 77.3%、R5 75.8%、R6 75.8%）を維持する。
- (2) 主体的・対話的で深い学びを実践し、社会の課題の解決に向け求められる資質や能力・知識や技能を育成する。
- ア あらゆる教育活動に主体的、対話的な活動を組み入れ、思考力、判断力、表現力を養う。
- イ 1人1台端末を活用し、個別や共同学習を積極的に行い、思考を深める授業実践に取り組む。
- ※ 授業アンケート「知識技能が身についた」の肯定的回答率について75%以上（R4 79.1%、R5 77.2%、R6 78.5%）を維持する。
2. 教育活動の充実と地域連携、地域貢献を主体とした産業を支える人材の育成
- (1) 職業観と知識・技能を兼ね備えた人材を育成する。
- ア 商業科では、習得した基礎的な知識をもとに、社会に求められるニーズに応じた専門的知識や技能を身につける。
- イ 福祉ボランティア科では、「幅広い利用者に対する専門性の高い介護を提供できる能力」を身につけ、国家資格である介護福祉士の資格取得をめざす。
- ウ 販売実習や介護実習等の体験的な学習を通して、顧客や利用者コミュニケーション能力を深め、心豊かな職業観を身につける。
- ※ 生徒アンケートによる「販売実習（介護実習）を通じて、ビジネス（介護福祉）に関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率70%以上を維持する。（R4 70.3%、R5 80.7%、R6 82.2%）
- ※ 日々の授業や実習を通して、ビジネスに関する専門的知識や技能を身につける。
- ※ 日々の授業や実習、施設実習を通して、福祉に関する知識や技能を身につけ、介護職員初任者研修、国家資格介護福祉士の資格取得をめざす。
- (2) 課題探究型学習に取り組み、未来を担う人材を育む教育を推進する。
- ア 学校設定科目「アントレプレナーチャレンジ」を通じてソーシャル・アントレプレナー（社会起業家）の育成をめざす。
- イ 健康と福祉の視点から、持続可能な開発目標としての住み続けられるまちづくりに向けた創り手の人材の育成をめざす。
- ウ 各学年において探求課題を設定し、地域社会における課題等の理解と解決に向けた教育活動に取り組む。
- ※ 連携団体や地域企業、行政などのステークホルダー（外部評価）による「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率80%以上を維持する。（R4 75.0%、R5 78.0%、R6 82.8%）
- (3) ビジネスや福祉に関する特色ある教育活動を情報発信し、地域への理解や関心を深め「地域に愛される淀商」をめざす。
- ア 本校の特色をより理解できる体験入学や学校説明会に向け内容の充実図り、ホームページやSNSも活用し広報活動の充実を図る。
- イ 高齢者施設での介護実習やボランティア活動を通じて地域密着型の学校をめざす。
3. 将来をみすえた自主性・自立性の育成
- (1) 生徒の指導体制を確立し、教育活動のあらゆる機会を通じて社会人基礎力を育成する。
- ア 基本的生活習慣を確立し、規律ある行動ができる社会性豊かな生徒を育成する。
- イ 生徒会活動を活性化し、淀商フェスティバル（体育祭、文化祭行事）などの体験的活動を充実させる。
- (2) 自主性や自立性を育む進路指導の推進
- 生徒一人ひとりの希望進路の実現に向けて自ら目標を立て挑戦し続ける態度を養う。
- ア 保護者説明会を定期的に開催し、保護者・家庭との連携を深め、生徒一人ひとりに必要な指導・支援を行う。
- イ 就職希望生徒へは、応募前職場見学に参加し、職種や業務等を事前に把握し、採用選考試験への準備、労働の意義について指導する。
- ウ 進学希望生徒へは、3年間で学んだ専門的知識・技能や資格を生かし、総合型選抜等による進学先の合格をめざす。
- ※ 就職については、一次内定率80%以上（R4 75.0%、R5 83.8%、R6 85.4%）、就職希望者内定率100%（R4 100%、R5 100%、R6 100%）を実現する。
- 進学希望については、進学希望者合格率 100%（R4 100%、R5 100%、R6 100%）をめざす。
4. 豊かな心と健やかな体の育成
- 人間尊重の教育に充実を図るとともに生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばし、自立できる人材を育成する。
- ア すべての教育活動を通じて人間尊重の精神と態度を養い、豊かな心を育む教育を推進する。
- イ お互いを尊重しながら個性豊かな文化の創造をはかり、未来を切り拓く主体性のある人材を育成する。
- ウ 支援学校と学校行事、生徒会行事等を通じて交流し、お互いを尊重する人間性や社会性を身につける。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断「先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定的回答率（R4 80.6%、R5 77.0%、R6 76.7%）75%を維持する。
5. 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり
- (1) 校内外の教職員研修を効果的に活用し、人材育成を図る。
- ア 教員のスキルアップを図るためテーマ別の研修会を開催する。日々の研究に努めるとともに、指導力の向上を図る。
- イ 教職員研修を効果的に活用し、継続的な人材育成に取り組む。
- (2) 教職員が自らの資質や能力の向上を図るため、働き方改革を推進する。
- ア 時間外在校等時間の縮減のため、教職員への啓発と意識改革を図る。
- イ 業務のスリム化やさまざまな方策による働きやすい職場環境づくりを推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学校満足度】 - 生徒（項目1～2）保護者（項目1・3） 教科指導、学校行事等、すべての教育活動を総括した学校の満足度においては生徒「学校生活は楽しい」の肯定的回答率が85.2%、保護者「子どもは学校生活を楽しんでいる」91.7%であった。昨年の生徒79.1%、保護者87.3%と比べ上昇の結果となった。生徒「学校生活に関する先生の指導は納得できる」の肯定的回答率が71.4%、保護者「学校の生徒指導方針に共感できる」の肯定的回答率が83.3%であることから、学校における教育活動の取組みのどの部分に課題があるか検証し、生徒の満足度を上昇させるため、個々のニーズに応じた教育活動の展開に繋げたい。 【学習指導について】 - 生徒（項目8～11）保護者（項目2）教職員（項目9～10） 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基礎基本となる資質や能力の定着を図るため、生徒1人1台端末等ICTをより活用し、授業内容の充実を図り、生徒が「わかる授業」「魅力ある授業」の実現をめざした。生徒「授業の内容はわかりやすい」の肯定的回答率が85.2%で、昨年の生徒74.4%と同様であった。保護者「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」は75.0%で、昨年の82.0%を下回った。また、生徒の「各教科の評価法（成績の付け方）について理解している」の肯定的回答率が、89.0%（R6 84.0%）であったことから、生徒の理解が深まるわかる授業に向け、教員間でも工夫を重ね、授業改善に取り組みたい。生徒「先生は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定的回答率が93.7%で昨年度の83.7から上昇し、教職員「1人1台端末等、ICTを活用した授業を行った」は86.4%を示し、こちらも昨年度75.8%より上昇した。ICTを活用した効果的な授業を教員間で、共有することが必要である。生徒「グループでの対話や相談、ディスカッション等を活用する授業が取り入れられている」の肯定的回答率が90.9%、教員「主体的で対話的な深い学習を授業に取り入れている」は81.8%となり、昨年度より（80.8%、78.5%）より上昇していることから、授業実践が真の学力の充実につながるよう、継続して取り組んでいきたい。 【進路指導について】 - 生徒（項目3）保護者（項目4・7）教職員（項目4） 将来の自己実現に向け、より実践的な学習を行い、実社会への意識を育成し、専門高校として、必要なスキルを高校の学習で身につけることが、将来の進路や仕事に必要なものだと認識し、進路指導に当たっている。また、進路指導に対する学校の姿勢に対する項目では、「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定的回答率が86.7%、「学校では一人ひとりの適正に応じた進路指導がなされている」の保護者の肯定的回答率が82.7%であり、概ね肯定的な回答が多かった。また、保護者の「学校は教育情報について提供の努力をしている」の肯定的回答率が85.8%の結果であった。今後、進路指導の情報提供を充実させ、連携を深めていきたい。教職員「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」の肯定的回答率が93.2%であり、進路指導部、3学年担任を中心に進路指導に取り組んだ結果、その成果が生徒や保護者向け学校教育自己診断に反映されている。 【生徒指導・生徒相談について】 - 生徒（項目4～6・12～13）保護者（項目5～6）教職員（項目13～15） 教育活動のあらゆる機会を通じて人間尊重の精神と態度を養い、豊かな心を育む教育の推進に努めてきた。生徒「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」の肯定的回答率が74.0%、生徒「先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」が88.8%（R6 90.0%）、保護者も87.3%（R6 75.0%）であった。いじめの発生した場合の観点からすると、より高い信頼度へ向けて来年度も取組みを進めていきたい。生徒「先生は自分の悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定的回答率が、85.2%（R6 85.0）、生徒「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」が91.6%（R6 92.0%）、保護者92.5%（R6 84.0%）の肯定的回答率があった。外部講師による講習会や教員による日々の対応に生徒、保護者が信頼を寄せていただいており、継続して取り組みたい。また、生徒「基本的な生活習慣が確立できている」の肯定的回答率が83.6%（R6 76.2%）であった。今後も基本的な生活習慣の確立に意欲を持って取組む生徒も増加傾向にあり、生活指導部、生徒会の朝の挨拶運動や朝学習の指導の効果が現れてきており、来年度も指導を継続する。 【生徒会指導について】 - 生徒（項目7・15）保護者（項目8）教職員（項目10） 生徒「学校行事は有意義で楽しい」の肯定的回答率83.6%（R6 82.6%）、保護者「学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の肯定的回答率78.2%（R6 78.0%）、教職員「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」の肯定的回答率88.6%（R6 93.0%）、生徒「生徒会活動・委員会活動・HR活動は活発に行われている」の肯定的回答率88.3%（R6 89.0%）であった。生徒会活動の取組みについて、生徒や保護者にとっては単に楽しいという訳ではなく、自分の将来にとって、生徒会行事での体験は役に立ち有意義なものだと感じている。生徒会を中心とした取組みは、全生徒の意欲に大きな変化や成果をもたらした。生徒会執行部の取組みを引き続き継続することを今後の学校行事への課題として取り組むたい。	【第1回 令和7年6月19日（木）】 ○生徒の状況について - 委員による授業見学を実施 - 授業を見学したが、一部、落ち着きのない生徒が見られたが、多くの生徒は、学習に取り組んでいた。 - ICTを活用した授業を行うことはよいが、その結果どのように変化があるのかフィードバックがなされているのか。その結果を基に、今後の授業をどうするのかなど、検討が必要である。 - 授業については、現在の社会の状況に応じた内容となっていると感じられた。 - 授業のあり方も、以前に比べ変化していることから、常に見直しが必要である。 ○学校経営計画について - 連携生徒間でできなかった理由を分析する必要がある。 - 簿記検定の合格率が伸びていない。今後、検定の取得に向けても、生徒への意識付けを行う取り組みが必要である。 - 教員の授業見学について、活性化していないところが気になる。また、より活性化するよう取り組んでもらいたい。見学しやすい環境をつくる必要がある。 【第2回 令和7年12月13日（土）】 ○学校の状況について 淀翔モール（大規模販売実習）実施日、委員による見学を実施 - 生徒が出店している扱う商品に偏りが見られる。もう少し調整した方がよいのではないか。 - 以前に比べ、地域の方来店が少ないように思える。地域とのつながりも大切にする必要がある。 - 経営を学ぶにあたってはよい取り組みである。全体のテーマなどを設け、共通した考えのもと出店しても良いのではないか。 - 早い段階から、専門的な知識や技術を身に着けることは、現在でも大切なことであると感じる。 - 人とのコミュニケーションは現在の社会でもとても重要である。 - 実業高校においてどのような学びを行うのか、どこまで生徒が理解しているのか。しっかりと伝える必要がある。 - 専門高校で3年間学ぶことについては、今後社会で活躍する上で、大きな意義があると考ええる。 ○スクールミッション・入試改革について - 現状、中学生においても大学等への進学意識が高い。実業高校への進学ニーズは高くないのが現状である。高校進学において、私学への進学志向が強くなっている。ただ、金銭的にはやはり公立に比べ大きいものがある。 - より大学との連携を進めても良いのではないか。 【第3回 令和8年2月25日（水）】 ○令和7・8年度学校経営計画及び学校評価について - 相互に授業見学する教員が少ないのは、教科の内容についてコメントが難しい面があるからか。小学校であれば、頻繁に教員が見学を行い、意見交換を行っている。授業の進め方など、全般的な部分で意見を求めるような、設定を行うことも良いかもしれない。 - 教員の負担を減らすことが、必要である。 - 就職後の生徒と繋がりを持つことで在校生へアドバイスを受けることができる。就職後の悩みなどを聞くことで、今後のキャリア教育に役に立つと考える。 - 探究学習を進めるには、指導方法に難しい面があると思う。 ○大阪府学校教育審議会商業教育部会について - 商業高校の学習内容がうまく伝わればいいが、1年生で難しく感じる生徒もいる。 - まなび直しを行う学校が人気があるのも事実。 - 中学校での進路指導では、どのような学校に進学しても、頑張ることができる指導が必要と考える。 ○学校教育自己診断について - 全般的な欠課としては、70%を割り込んで行くことはなかった。 - 授業見学する時間の確保が課題である。 - 探究学習を進めることで、教員の負担が増している部分があるのではないかと。 - A Iを学習に活用することは、使い方、どう質問するかが重要である。自己研鑽にA Iを活用していることが多い。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1. 確かな学力の定着と学びの深化	(1) 授業改善による「確かな学力」の確立	ア 授業改善 ・授業力向上を目的として授業見学週間を設け、授業内容等について教員間の情報共有を行い授業改善に取り組む。 ・基礎学力定着に向け、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。 イ 研修活動 ・授業アンケートの課題を検証、分析することで授業改善につなげる。 ・教育センター主催で開催される各教科の研修会等を周知し、必要な研修の受講増やし指導力の向上に努める。	ア ・教員向け学校教育自己診断で「授業見学を行った教員」の割合 70%以上をめざす。[57.2%] ・生徒向け学校教育自己診断の肯定的回答率「授業の内容はわかりやすい」80%以上をめざす。[74.5%] イ ・授業アンケート「興味関心」の肯定的回答率を 70%以上維持する。[75.8%] ・研修会を昨年度以上の回数を受講する。[46 回]	ア ・授業見学を行った教員の回答率は 54.4%で、目標に到達しなかった。見学週間を設定し、振り返りを行いたい。(△) ・授業アンケートの肯定的回答率「授業の内容はわかりやすい」85.2%と上昇した引き続き授業改善に取組みたい。(○) イ ・「興味関心」の肯定的回答率は、86.6%と授業改善の取組が見られる。(◎) ・教育センター等、外部への研修会への参加 57 回。(◎)
	(2) 新学習指導要領における指導の充実	ア 思考・判断・表現力を身につける教科活動 ・各教科において、自己表現ができるプレゼンテーション等を取り入れ、協同的な学習を実践する。 ・知識や技能を習得するとともに思考力・判断力・表現力の定着に向け学習形態工夫し実践する。 ・日々の生徒の教育活動の成果を多面的な角度から評価することで、生徒の取組みを可視化し、学習意欲の向上につなげる。 イ ICTを活用した授業実践 ・ICTを活用したわかりやすく、工夫された授業を実践する。インターネットにつながった状態での授業など、生徒の興味や関心を引く授業を取り入れる。	ア ・教員向け学校教育自己診断で「主体的で対話的な深い学習を取り入れ実施した」教科の割合 80%以上をめざす。[78.5%] ・授業アンケート「知識技能」の肯定的回答率 80%以上をめざす。[78.5%] ・生徒向け学校教育自己診断の「各教科の評価法（成績のつけ方）について理解している」の肯定的回答率 80%以上を維持する。[83.0%] イ ・教員向け学校教育自己診断で「ICTを活用した授業を行った」肯定的回答率 75%以上を維持する。[75.8%]	ア ・「主体的で対話的な深い学習」の実施については 81.8%で、取組は進みつつある。(○) ・「知識技能」の肯定的回答率は、88.3%で、専門的技術・知識がより身についてきている。(◎) ・「各教科の評価法理解の」 肯定的回答率は、89.0%であった。(◎) イ ・「ICTを活用した授業」の肯定的回答率は 86.4%であり、進みつつあるが、今後も授業改善に努めたい。(○)
2. 教育活動の充実と地域連携地域貢献を主体とした産業を支える人材の育成	(1) 職業観と知識・技能を兼ね備えた人材の育成	ア ビジネスに関する知識・技術の習得 ・ビジネスマナーの実践学習に向け、外部講師による講義を実施するなど、社会人として必要な力が身につく指導の実施。 ・起業ための知識を学び、大型販売実習「淀翔モール」での経験をもとに、よりよい職業観を育む。 イ 介護福祉に関する知識と技術の習得に向け授業の充実に取り組む。 ・福祉に関する基本的な知識と技術の習得と、新しい介護知識や技術を兼ね備えた実践力を育成する。 ・2 年次に介護職員初任者研修講座を開講し、介護職員初任者の資格取得をめざす。 ・3 年間の学習の成果として卒業時に国家資格介護福祉士の合格をめざす。 ウ 商業教育の特色化と魅力化を図る ・学校設定科目授業「アントレプレナーチャレンジ」を通じ、会社経営に関する知識ついて学習する。 ・「淀翔モール」において福祉に関連したブースを設置し、福祉ビジネスに関する学習の機会を設ける。 エ 介護福祉の魅力を学ぶ「介護実習」 ・福祉科目「介護実習」では、高齢者施設等での実習を通じて、授業で学んだ知識や技術をいかし、実践力を高めるとともに、利用者との関わりを通じて介護福祉の魅力やよりよい職業観を育む。 ・介護施設実習がより高いレベルのものとなるよう、授業では常に介護現場を想定した実習を実施。	ア ・オンライン講義を含め、外部講師による講義を 5 回以上実施する。[6 回] ・生徒アンケート「販売実習を通じて、ビジネスに関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率 80%以上を維持する。[82.2%] イ ・ICTを活用した実習発表を各学年に 1 回以上実施する。[6 回] ・介護職員初任者研修合格率 100%を維持する。[100%] ・国家資格介護福祉士合格 95%以上を維持する。[100%] ウ ・「淀翔モール」における生徒アンケート「仲間とともにより良い結果を出すための方法を考え、役割分担して取り組むことができた。」の肯定的回答率 80%以上をめざす。[73.6%] ・福祉関連ブースを 1 つ設置する。[1 ブース] エ ・生徒アンケートによる「介護実習を通じて、介護福祉に関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率 80%以上をめざす。[86.8%] ・実習指導者アンケートによる「排泄介助・食事介助・入浴介助の基本的な介護技術を行うことができる。」の肯定的な回答率を 3 年生で 85%以上を維持する。[91.2%]	ア ・外部講師による講義は 11 回実施し、より実践的な学習に取組めた。(◎) ・「販売実習を通じて、ビジネスに関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率 90.4%であった。(○) イ ・ICTを活用した実習発表を 6 回実施した。(○) ・介護職員初任者研修合格率 100%。(○) ・国家資格介護福祉士合格 90.4%%。(○) ウ ・「淀翔モール」のアンケートにおいて肯定的回答率は、97.0%であり、生徒一人ひとりの意識も向上してきている。(◎) ・「淀翔モール」において、福祉施設の講師を招き、講演会を実施した。(○) エ ・「介護福祉に関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率は、98.0%であった。(◎) ・実習指導者アンケートによる「排泄介助・食事介助・入浴介助の基本的な介護技術を行うことができる。」の肯定的な回答率は 91.3%であり、昨年と同様の内容であった。(○)
	(2) 課題探究型学習に取組み、未来を担う人材を育む教育	ア ソーシャル・アントレプレナーの育成 ・学校設定科目「アントレプレナーチャレンジ」を通じて、SDGs から地域課題に即したテーマを設定しビジネスを通じて課題解決に向けた探求型学習に取り組む。 ・起業家・経営者等の外部講師を招き、未来を切り拓く社会起業家の重要性を学ぶ イ 住み続けられるまちづくりに向けた創り手の育成 ・介護福祉の専門性を生かして、高校生による介護教室や介護予防体操、施設交流会等を実施する。	ア ・連携団体や地域企業、行政などのステークホルダー（外部評価）による「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率 80%以上を維持する。[82.8%] ・大学教授や中小企業診断士等と年 3 回以上連携し、経営アドバイザーとして生徒の活動を支援する。[3 回] イ ・地域貢献として介護教室や施設交流など年 1 回以上実施する。[1 回] ・連携団体や実習施設による「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率 80%	ア ・連携団体や地域企業による「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率は 94.9%であった。(○) ・大学教授等と連携について、年 3 回実施し、学習活動に生かした。(○) イ ・介護教室や施設交流を 1 回実施した。(○) ・連携団体や実習施設による「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率は

府立淀商業高等学校

		・社会福祉協議会と連携して、介護福祉の理解者・応援者を広げる地域福祉活動を実践する。 ウ 学年ごとに探求課題を設定し「ビジネス」「地域福祉」とつながる教育実践 ・1・2年生探求の時間の学習内容について検証を行い、改善を行う。 ・生産者（製造者）の声を聞く機会を設けるなど、購買者が求めるニーズに対応できる能力を育成する。 ・オンライン会議システム等、多様な場面での取組みを想定した新たな地域福祉活動の実践を行う。	以上を維持する。[82.8%]	94.9%であった。（○）
	（3）特色ある教育活動の幅広い情報発信	ア 必要な情報発信に向けた広報活動の充実 ・体験入学や学校説明会において中学生や保護者等の意見を取り入れ、よりニーズに応じた説明会を実施する。また、中学校訪問やホームページ、SNS等で学校説明会情報を断続的に発信する。 ・日頃の教育活動の状況をホームページに掲載し、普段の学校情報を数多く発信し、高校生活等の疑問を取り除く。 ・メール配信システムを活用し保護者へ情報発信と周知をタイムリーに行う。 イ 介護実習、福祉活動、ボランティア活動を通した学校作り ・介護等施設における実習を実施する。 ・地域の福祉施設でのボランティア活動を実施し地域に貢献する。	ア ・学校説明会の累計参加者数 500 名以上をめざす。[421 名] ・ホームページの更新回数 300 回以上実施する。[342 回] ・保護者へのメール等の配信回数 20 回以上実施する。[20 回] イ ・介護施設等での実習を1年生12日間・2年生20日間・3年生20日間実施する。[1年生12日間・2年生20日間・3年生20日間] ・ボランティア活動を5回以上実施する。[7 回]	ア ・学校説明会の累計参加者数は407 名であり、学校の特色を伝えてきた。（○） ・ホームページ更新回数は305 回（1/9 現在）（○）行った。 ・保護者へのメール等の配信は、24 回実施し、情報提供を行い連携を深めた。（○） イ ・介護施設等の実習は、1 年 12 日間、2 年 20 日間、3 年 20 日間実施した。（○） ・ボランティア活動を、社会福祉施設や地域団体等へ、年間7 回実施した。（○）
3. 将来をみすえた自主性・自立性の育成	（1）社会人基礎力の育成	ア 社会性豊かな生徒の育成 ・社会人基礎力の向上にむけ「遅刻をしない、時間を守る」「服装頭髮等のルールを守る」等、基本的な生活習慣を確立する。 ・中学校からの変化に対応するため、朝学習や声掛けなどを行い、基本的な生活習慣を確立する。 ・「挨拶、正しい言葉遣いができる」など、適切な対人関係やコミュニケーションの育成の充実を図る。 イ 生徒の主体性を育む生徒会活動を活性化 ・学校行事やボランティア活動など体験的活動の充実を図るとともに生徒の自主的な運営を支援する ・体験入部や部活動紹介を実施し、部活動の意義等を生徒に伝え、部活動加入率を上昇させ、学校生活の充実を図る。	ア ・生徒向け学校教育自己診断「基本的な生活習慣が確立できている」の肯定的回答率 75%以上を維持する。[76.2%] ・遅刻者数年間 1,300 名以下を維持する。[1,119 名] ・生徒向け学校教育自己診断「先生や外部からのお客様に対して挨拶ができる」の肯定的回答率 90%以上を維持する[90.0%] イ ・生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動・委員会活動・HR 活動は活発に行われている」の肯定的回答率 75%以上を維持する。[87.9%] ・部活動加入率 45%以上をめざす。[40.1%]	ア ・「基本的な生活習慣が確立できている」の肯定的回答率は、83.6%であったが、引き続き学校生活の充実に向けて取組む必要がある。（◎） ・遅刻者数 1,210 名（○） ・「先生や外部からのお客様に対して挨拶ができる」の肯定的回答率は 90.2%で、今後も継続して指導を行う。（○） イ ・「生徒会活動・委員会活動・HR 活動は活発に行われている」の肯定的回答率は、88.3%であった。引き続き活性化に向け、生徒の意見も聞き取組む。（○） ・今年度の部活動加入率は 42%であった。4 月に期間も設けているが、昨年度に比べ、上昇は見られなかった。（○）
	（2）自主性や自立性を育む進路指導	ア 自己進路実現に向けた家庭との連携 ・進路希望調査をもとに3年生全員に個別面談の実施、保護者へ情報提供を通し、自己実現に向けた進路指導の実施。 ・外部講師による講演会や相談会を実施し、自己の将来の進路に対する、知識や考え方を身につける。 イ 就職希望者への取組み ・就職に必要な情報をホームルームや教育懇談、就職面談を通して、必要な情報を適切なタイミングで生徒へ発信する。 ・履歴書の作成指導や面接練習等を繰り返し実施し、希望企業への内定をめざす。 ウ 進学希望者への取組み ・オープンキャンパス等の参加を促すとともに、進学向け進路ガイダンスを実施し、より適切な進学指導を行う。	ア ・進路についての保護者説明会を各学年1 回以上実施する。[3 回] ・進路に関する講演会を年3 回以上実施する。[3 回] イ ・面接練習を5 回以上実施する。[6 回] ・就職について、1 次内定率 85.0%以上、就職希望者の 100%内定を維持する。[1 次内定率 85.4%、 最終内定率 100%] ウ ・生徒や保護者に進路情報を提供するため校内外の進路ガイダンスを全学年で年3 回以上実施する。[3 回]	ア ・進路についての保護者説明会を各学年合計3 回実施し（リモートでも実施）、本校の取組を説明した。（○） ・進路に関する講演会について、ハローワークや外部機関から講師を招き3 回実施した。（○） イ ・面接練習を、年間6 回実施した。（○） ・就職について、1 次内定率 91.9%、就職希望者最終内定は 100%であった。（○） ウ ・進路ガイダンスについては、1 年生3 回、2 年生3 回、3 年生5 回実施し、それぞれの学年に応じた内容で進路指導を行った。（○）

府立淀商業高等学校

4. 豊かな心と健やかな体の育成	学校生活における相互尊重	ア 人権尊重の精神と態度を養う ・教員間での適切な情報共有を図り、支援を必要とする生徒に対し、関係機関との連携を深め支援体制の充実を図る。 ・命の尊さを知るとともに、周囲の人を大切にする意識を育成する。 イ いじめの未然防止と早期発見、早期対応 ・いじめアンケートを各学期1回実施し生徒の実態把握に努め、いじめの未然防止に努める。 ・いじめ防止対策委員会を開催し、早期発見、解決に向け、常に状況共有を図る。 ウ 支援学校との校種間連携を通し、ともに学ぶ心の醸成を図る。	ア・イ ・特別支援会議を各学期に複数回実施する。[8回] ・「命の大切さ」に関する講演会を年1回実施する。[1回] ・生徒向け学校教育自己診断「先生は子どもの悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定的回答率75%を維持する。[76.7%] ウ ・文化祭、卒業式での支援学校生徒との作品展示による交流を年1回以上実施する。[2回]	ア ・特別支援会議を年間6回実施した。(○) ・「命の大切さ」に関する講演を1回実施した。(○) ・「先生は子どもの悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定的回答率は、85.2%であった。今後も丁寧な対応が必要である。(○) ウ ・文化祭、淀翔モール、卒業式で西淀川支援支援学校と連携し、生徒作品展示や販売を計3回実施した。(○)
5. 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり	(1)教職員研修の充実	ア 教職経験の少ない教員のスキルアップを目的とした研修の実施 ・教員の資質向上を図る研修等の取組みを行い、スキルアップを図る。 イ 防災研修の実施 ・防災訓練とともに安全点検(学期終了時)や救急処置講習会等を実施し、防災安全に努める。 ・各種教職員研修の計画的な実施。 教職員人権研修 教職員コンプライアンス研修 特別支援に関する研修会 等	ア ・各学期1回以上の研修や相互授業見学を実施する。 イ ・防災訓練年2回、救急処置講習会を年1回以上実施する。[防災訓練2回、救急処置1回] ・教職員人権研修を2回以上実施する。[2回] ・体罰、暴力行為等防止研修の年1回以上実施する。[1回] ・教職員コンプライアンス研修を年1回以上実施する。[1回] ・特別支援に関する連絡協議会を各学期1回以上実施する。[8回]	ア ・授業観察や助言等を研修の一環として2回実施したが、学期ごとには至らなかった。(△) イ ・防災訓練2回、救急処置1回実施し、災害が起こった際の迅速な対応における知識と技術の向上を図った。(○) ・西淀川区、鶴見商業高校と連携し、津波防災学習「津波タッグ」を実施し、淀翔モールにて、成果発表を行った。(○) ・教職員人権研修を2回、体罰、暴力行為等防止研修を1回実施した。(○) ・コンプライアンス研修を1回実施。(○) ・特別支援に関する連絡協議会を6回実施した。(○)
	(2)教職員の働き方改革	ア 時間外在校等時間の縮減 ・水曜日の一斉退庁日、長期休業中の学校閉庁日の設定、業務分担や業務の効率化による、業務の時間の縮減を図る。 ・部活動の休養日の遵守等により、時間外在校等時間の縮減を図る。 ・時間外在校等時間の状況を常に把握し、身体的・精神的な負担度を確認し、健康管理に努める。 イ 働きやすい職場環境作り ・管理職の巡回や教職員から意見を聞き取りし安全で働きやすい職場環境づくりをめざす。	ア ・1か月の時間外在校等時間が月45時間以内の教員の割合80%以上をめざす。[72.9%] ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員に対し面談を実施する。[100%] イ ・管理職による校内巡回の1日1回以上実施や管理職による聞き取り等で状況を把握する。	ア ・1か月の時間外在校等時間45時間以内の教員の割合83.0%。(○) ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員10名に対し産業面談・校長面談を実施し、業務内容や取組み姿勢について確認し、効果的な業務に向け課題整理を行った。(○) イ ・管理職による校内巡回を、日々実施し、生徒の状況を含め、学校の状況を把握し、早期から生徒指導や支援が進むよう、情報共有を行った。(○)